

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100208		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム原市		
所在地	群馬県安中市原市1867		
自己評価作成日	平成27年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成27年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者と職員との関係が一方的にならずに、お互いに助け合い笑顔が溢れ、ご利用者、ご利用者の家族、職員が幸せになれる施設づくりに力を入れています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は地域との交流に力を入れている。その結果認知症の講演会を実施出来たり、地域の青年部や婦人部の協力のもとイベントをしようという声が上がったり、いきいきサロンの活動予定等の協力が得られている。努力の結果が見えてきており今後も協力を得て、地域の資源となれるように努めてほしい。また、居室の様子から入居者の人柄や好きな物が伝わり、その人らしい個別性のある居室づくりがなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には、地域密着という言葉の意味を理解してもらえるよう説明し、利用者の自立と共に実践できるよう、ホール・事務所に掲示している	理念を目標と捉え、管理者が手本を示しながら、地域との交流や日々の支援等に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣で行われるイベント(夏祭りやどんと焼き)の参加やホーム内イベントへの参加の呼びかけ、地域の人たちが組織しているボランティアグループの積極的な受け入れを行っている	地域の方との会話やボランティアの来訪、認知症講演で徐々に交流が広がっている。今後はいきいきサロンや区民センターで料理の提供を受けたり、事業所主催のイベントを実施したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にホームの事を知っていただくことが、地域貢献につながる一歩だと考え、行事への参加の呼びかけや、利用者との散歩時には積極的に挨拶等を行い、「困ったことが有ったら何時でも遊びに来てください」と声掛けしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、単なるホームからの報告会にならない様、ホーム側から助言を求める形で問題定義を行い、意見交換を行っている。近隣住民や相談員から頂く地域の情報(イベント等)は特に積極的に活用している	家族・民生委員・区長・行政が出席し定期的に開催し、活動報告や災害・看取り等の議題での意見交換や区長から地域情報が発信されている。1回の行政の出席がなく家族の参加が少ない。	家族が参加しやすい日程を他のメンバーに協力を求める等、家族も気軽に参加しメンバーとの意見交換の場になることを期待したい。また、行政には毎回の出席をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員が来所してくれており、相談等を行っている。市が主催する研修会への参加や市役所の職員に助言や協力を頂いている。	介護保険の更新代行で市の担当窓口に出向いている。介護相談員が定期的に来訪し、利用者の想いを受け止めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修等で話を聞くだけでなく、グループワークを通して職員間で議論する時間を設け理解を深めてもらうようにしている。玄関の施錠については運営推進会議や御家族への説明で御理解を得ています。	道路が近いこともあり日中玄関の鍵は施錠している。共用空間の窓は開いている。ふらっと出かける人には職員と一緒に散歩に出かけている。身体拘束に関する勉強会を行っている。	利用者の特徴を職員が共有し、少しの時間からでも開錠できるように努力してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特にカンファレンス時に、ケアが内容が変更になる時には虐待にはならないかを検討し、また身体拘束同様、研修・グループワークを通じて理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、御家族や関係者(社協職員、民生委員)への対応は管理者だけが行っており、その他職員への研修等が行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約締結時には、必ず御家族並びに御本人にも同席いただき、管理者が直接対応しており、十分な説明と同意を得てから契約をするように務めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた際は、日頃の様子等を報告するとともに、御家族の要望を伺うようにしている。御意見を頂いた場合は、申し送り等で速やかに報告するとともに、対応しています。玄関には意見箱を設置している。	管理者は家族との関係作りに努力している。家族に「何かありますか」と声を掛けており、家族も意見を言ってくれる人が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り時に、意見や提案を聞く機会を作るとともに、日常業務の中でも話し合いながら対応できるように心掛けている。	3カ月に1回程度、全体会議を開催。管理者は職員の退勤時に事務所におり、何でも話せる機会を作っている。年に1~2回個別面談を行い休日や資格取得、仕事の内容等の相談を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働時間や休日の取得を管理者が把握し、なるべく希望に沿ったシフト作りを実施しており、代表者が施設を訪れ、職員等に声掛けを行っている。今のところ年1回だが、管理者が職員との個人面談を実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2~3カ月に1回全体研修を始めているおり、勤務中にも管理者が積極的に指導をするようにしている。法人外の研修への参加にも声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に加盟しており、研修参加時には、意見交換や情報の収集を行っているが、管理者だけの交流に留まっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には勿論のこと、入居初期の段階では、特に個別対応を心がけ、御本人からの要望等を収集し 安心できる関係作りが出来るように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問合せから入居に至る段階から、御家族の希望を伺う機会を作り、ホームでどの様に生きていってもらいたいかをしっかりと受け止めるようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを選んだ経緯等を伺い、どのようなサービスを希望しているのかを見極め、直ぐに入所が必要なのかどうか等、他の選択肢を含めたお話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の映像や写真を見ながら、昔の事や風習やしきたりについて教えていただいたり、利用者が得意としていること(縫物・踊り・歌等)をお願いし、互いに感謝し合える関係を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議への参加のお願いや情報提供、時には介助への協力もお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の意向を伺いながらですが、御家族以外の方の面会や外出が出来るようにしており、外出時には思い出の場所に立ち寄る様にしている	入居後も誰と会いたいかという思いを考慮しながら馴染みの支援に繋げている。家を見に行ったり、片づけを手伝ったり、馴染みの場所への花見等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのテーブル席は、なるべく気の合う方や仲の良い方を近くにしたり、職員が間に入り利用者同士が交流を持てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、電話・面談での相談に対応している。御家族・御本人の許可があれば、面会に伺う場合もありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の習慣や日頃の会話の中から、意向を把握したり、意思疎通が困難な方には、御家族からの情報をもとに、一人ひとりの思いを推測し、カンファレンス等で思いを共有できるように努めている。	利用者の日常会話や様子から意向等把握している。家族からは面会時に職員が聞いたり、管理者が訪問や電話で希望等、確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・家族から生活歴を伺い、普段の生活の中での会話等からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや心身状態を観察し、カンファレンス等を通して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を基に職員間で話し合い、日常で気付いたことや意見を介護計画に反映させています。	モニタリング及びサービス担当者会議を3ヵ月毎に行い、定期的に介護計画を見直している。また、状態変化の際には随時見直しを行っている。	モニタリングは毎月行い、実施されたモニタリングを基に現状に即した介護計画の作成をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ごとの記録には、日常の様子を記録し、気付いた点等は職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望や状況により、病院への受診や入院中の支援、買い物、外出支援等のサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	踊りを披露して下さる近隣の方や民生委員の受け入れしている。近隣の方に緊急時の御協力をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や家族が希望する病院があれば、その病院と連携していき、希望する病院がなければ、協力医療機関を提案しており、状況に合わせた診療体制をとっている	入居時に説明し、かかりつけ医の継続か協力医に変更できる。協力医による月に一度の往診がある。かかりつけ医を受診する場合も職員が支援をしている。今後は訪問歯科導入も検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師との報告・相談は密にしており、加えて同一法人の訪問看護ステーション所属の看護師とも医師の指示に基づき、適切な健康管理に努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者から病院側に情報提供を行っています。また、基本的には御家族を窓口に、情報収集をしています。都合がつかない場合は、職員が定期的に病院を訪ね、医師・看護師と連携をとっています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、御家族が延命治療等について、どのようなお考えをお持ちかを伺い、ホームとして出来ること、出来ない事を説明しています。実際に重度化してきた場合は、管理者・看護師が御家族との話し合いを多く持つように務めています。	指針とマニュアルはある。訪問看護と契約しており、看取りの事例がある。また、終末期に関する研修を行っている。今後はマニュアルを充実させ、支援に活かしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で、緊急時対応の基準やその際のフローチャートを作成している。救命救急法に関しては、全職員が研修を受けるには至っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、近隣の方にも、協力要請をしています。運営推進会議でも自治会長等に協力をお願いをしています	26年5月昼想定通報・消火・避難訓練とその後の反省会及び3月に地震訓練を職員のみで実施した。食料の備蓄の用意がある。	各災害を想定して自主訓練を増加して不測の事態に備えてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を人生の先輩・年長者だという事を忘れずに接することを念頭に置き、話しかける内容によっては、場所を居室等に変え個別対応を心がけています。	呼称は「～さん」と職員は共有している。同性介助を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、着る服を選んでいただいたり、買い物やおやつの内容等本人の意思を尊重し自己決定できるような支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は大まかには決まっていますが、その中で本人の意思を尊重し、職員が利用者に合わせるように務めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理容があます。基本自分で持参した好きな服を着ていただいております、服の買い物の支援も行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは、出来ると思われることをお願いしています。外食のできるご利用者とは定期的に外食に出掛けたりしています	一つのユニットのキッチンで2ユニット分の食事を調理専門者が作り、味の評価をしている。しょうゆやポン酢は好みで使用できる。飲み物のメニューがあり、選択できる。とんかつやラーメンの外食を楽しんでいる。食器に名前が貼ってある。	尊厳等の視点から食器の名前をはがして、職員は覚えるように努力してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の持っている疾患に応じた味付けや量を考慮しており、毎月の体重測定も実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、自分でできる方は見守り、出来ない方もなるべく個々な合わせた一部介助で行い、夜間に義歯消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導だけでなく、ご利用者が発するサインを見逃さないように観察し、トイレ誘導を行うようにし、トイレでの排泄援助をに務めている。	チェック表を参考にパットの交換やトイレ・ポータブルを使用したり、夜のみオムツ利用者もいるが、自立に向けた支援をしている。居室での対応が基本である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師に法人内研修をお願いしたり、食事内容だけでなく、間食にヨーグルトや乳酸菌飲料を取り入れており、便秘の状態により医師や看護師に相談しながら、下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニットが曜日を変えて週2日入浴しています。年に数回外部の日帰り温泉の利用も実施	職員数の関係で入浴日が決められている。拒否のある方には声掛けや人を替えたり、家族が協力してくれて支援に繋がっている。季節による清拭やシャンプー等の持ち込みにも対応している。	事業所の都合ではなく利用者の選択で入浴できるように、入浴日を増加し、今日も入れるとアナウンスをして、希望に添った支援をしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール等の共用スペースの消灯時間は決めているが、就寝時間に関しては個々にお任せしている日中の休息に関しても個々の希望に沿うように務めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はすべて職員が行っている。毎回協力薬局から薬情を出してもらい、個別ファイルに保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬剤師から説明を受けており、不明な点があればその都度電話にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好をフェイスシートから確認し、職員から提案をすることもあります。ぬり絵や将棋、音楽鑑賞、散歩、職員との会話など利用者同士のかかわりがスムーズにいくように、職員が間に入り支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や季節ごとの花見、外食、買い物等ご利用者の希望にそって支援しており、御家族との外出や外泊も積極的に支援している。	日常的には散歩に出かけている。個別や1人～3人程度で花見やドライブ・買い物等に出かけて気分転換や馴染みの場所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・ご本人からの要望があれば、能力に応じて所持して貰っているが、基本的にはご家族に管理して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からので電話の取り次ぎや、電話をかけたいたの希望があれば、臨機応変に対応するようにしている。毎年、出来る方には年賀状を書いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や、ご利用者が描いた絵を飾るなどしており、作品発表の場にもなっている。環境整備にも心掛け、清潔感あふれる場所になる様に配慮している。	テーブルが一列に並んでおり、相性を考慮している。日頃の手作り品や個人の作品が掲示されており、不快な臭いはしない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファ、テーブル、テレビを配置、玄関前には椅子を設置し、各自が好きなように過ごせる空間作りをしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明時には、ご家族に使い慣れた馴染みのあるものをお持ちくださいと説明しています。	各居室に地域の「社協便り」が届けられている。タンスや仏壇、アルバムや日用品が使いやすいように置かれており、個別性が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室には手すりを設置し、段差をなくしています。ホールのホワイトボードには日付や予想気温を記入し、時計、カレンダーも設置しています		